

# “さつま町に住みたい!”を応援

さつまいろ  
さつま町の移住・定住に  
関するPR動画はコチラ!



さつま町では移住希望者を積極的に受け入れています。  
新生活準備、新規就農・就業の支援制度なども充実。

## さつま町の移住支援

都市部などからさつま町への移住を望む方々のために、特色のある分譲地や賃貸住宅を用意。移住施策情報の発信や相談対応を行うなど、UIJターンの促進につながる取組を推進しています。新規就農、新規事業への支援制度もあり、さつま町での新たな暮らし、新たな挑戦を応援します。

### 分譲宅地

町の土地開発公社とさつま町が管理する宅地の分譲を行っています。温泉の引き込みが可能な区画もあります。

### 定住促進住宅団地

1坪(3.3㎡)あたり月額100円で宅地を利用可能。満期(20年間)を迎えると自分の土地になります。

### 移住定住促進補助金

移住における住宅の新築・購入・空き家リフォームには補助金を支給。さらに、中学生以下の子どもがいる場合は人数に応じて補助金を加算します。また、町の土地開発公社とさつま町が販売する住宅地(佐志ニュータウン、東谷住宅団地など)を購入した場合は「住宅団地加算」もあります。



佐志ニュータウン



東谷住宅団地

## さつま町移住交流施設 「さつま体験宿」

移住希望者のための宿泊施設があり、さつま町の暮らしを体験しながらじっくりと移住を検討できます。最大で30泊可能。施設は町の中心部に立地し、周囲には公共施設や商業エリアがあります。この地域での暮らしをイメージしやすい環境です。1階と2階の部屋にそれぞれ体験入居できるようになっていて、事前の申し込みが必要。利用の90日前より申請できます。



間取りは3LDK。テレビや冷蔵庫などの家電も揃っています。フリーWi-Fiでインターネット通信も利用可能。



炊飯器や電子レンジ、食器類も備え付けられています。

### ふるさと回帰フェア

関東圏などで開催される移住セミナーに参加し、町の情報発信を積極的に行っています。地域おこし協力隊員も同行し、移住者の視点でリアルな情報を伝えています。



居酒屋 慎-Shin- 代表  
やすだ しんや  
安田 慎矢 さん

さつま町出身。大阪市や鹿児島市での飲食店勤務を経て令和元年にUターン。



**Question01**  
さつま町に戻ろうと思ったきっかけは?

もともと、さつま町で店を出したいと思っていました。鹿児島市で働いていたときは子どもと接する時間がなかなか取れなかったため、娘が修学する前に地元に戻ろうと決めました。

**Question03**  
さつま町の魅力はどなところ?

さつま町の子どもたちが素直で、通りすがりの私たちにも挨拶をしてくれるのがうれしいですね。また、地域のつながりが深いので家族ぐるみの交流ができて、顔の見える商売ができるところが魅力だと思います。

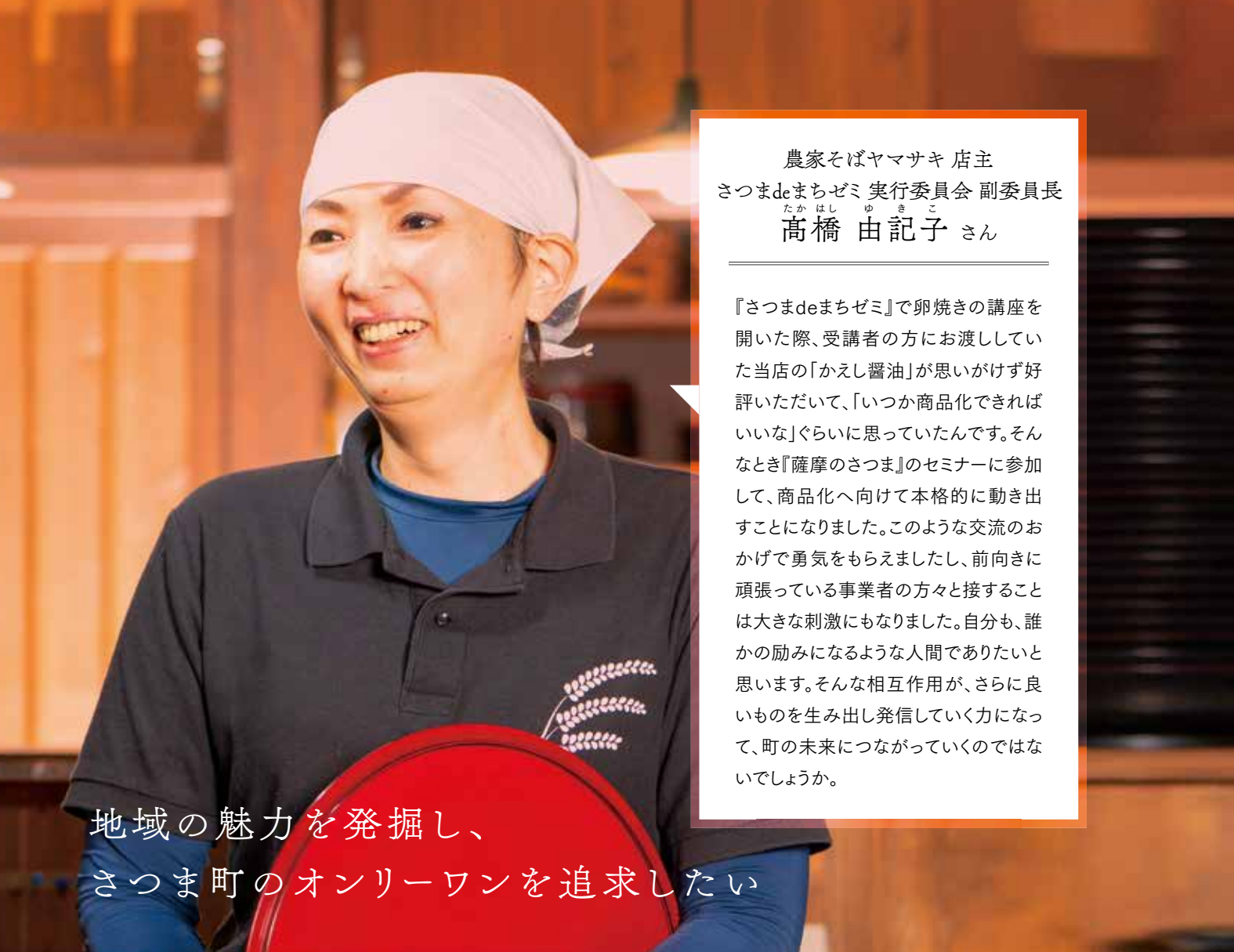
**Question02**  
実際に暮らしてみてもいかがですか?

引っ越してから自分の時間も作れるようになり、子どもたちと遊ぶことも多くなりました。お店のお客さんは同級生の親御さんも多く、ほとんどが地元の方なので、地域のつながりを実感しています。

**Question04**  
さつま町での子育てで期待していることは?

タケノコ掘りや地域の行事に参加しながら、自然や地域の大人たちと触れ合ってもらいたい。都会では味わえないことを満喫して、成長したときに「ここが故郷で良かった」と思ってもらえたら良いですね。





農家そばヤマサキ 店主  
 さつまdeまちゼミ 実行委員会 副委員長  
たかはし ゆきこ  
 高橋 由記子 さん

『さつまdeまちゼミ』で卵焼きの講座を開いた際、受講者の方にお渡ししていた当店の「かえし醤油」が思いがけず好評いただいて、「いつか商品化できればいいな」ぐらいに思っていたんです。そんなとき『薩摩のさつま』のセミナーに参加して、商品化へ向けて本格的に動き出すことになりました。このような交流のおかげで勇気をもらえまし、前向きに頑張っている事業者の方々と接することは大きな刺激にもなりました。自分も、誰かの励みになるような人間でありたいと思います。そんな相互作用が、さらに良いものを生み出し発信していく力になって、町の未来につながっていくのではないのでしょうか。

地域の魅力を発掘し、  
 さつま町のオンリーワンを追求したい



株式会社日特スパークテックWKS さつま工場 副工場長  
やまぐち ますお  
 山口 益男 さん

株式会社日特スパークテックWKSのさつま工場は、さつま町とともに50年歩んできました。1974年、90人でスタートした工場は、現在1,100人を超える従業員が働く大きな工場になりました。ここまで成長できたのは、町内で協力してくれた会社や取引先の企業との連携があつたことと思います。近年、日本全体で人口減少が加速し、さつま町でも過疎化が心配されています。しかし、人口約2万人ほどの町に世界シェアナンバーワンの工場があるというのは素晴らしいことです。そこに自信を持って、さつま町の企業全体で雇用確保しながら過疎化のスピードを緩めるような流れを作っていければと願っています。

地域に根ざした  
 “ものづくり企業”  
 を目指します

## 商業

宮之城屋地・虎居地区を中心に商業エリアが広がっています。また、特産品直売所では町内で生産される農林産物などを販売。地産地消も活発です。

さつまいろ  
 さつま町の商業に  
 関するPR動画はコチラ!



さつまdeまちゼミ  
 「まちゼミ」は、商店店主やスタッフが講師となり、プロの専門知識、技術やコツを無料で教える地域活性化事業です。商店街の魅力を再発見し、まちを活性化させ地域貢献する取組として、全国の地域で実施されています。

さつま町の**商業**に関するとりくみ(抜粋)

### 特定創業支援事業

地域の創業者支援を目的に「創業支援事業計画」を策定し国の認定を受けました。創業支援事業者で構成される「さつま町創業支援ネットワーク」により、初期の相談から創業後、独り立ちをするまで、一貫した創業支援を行います。

### 空き店舗対策事業補助金

空き店舗の解消と、商店街の活性化や地域に密着した街づくりを目的として、さつま町内の空き店舗(さつま町空き家バンク登録物件)を活用し、新たに商業を営もうとする方や、規模拡大等を図る中小企業者に対して家賃の一部を補助します。

## ものづくり

企業誘致を積極的に行っていて、ものづくりの町でもあります。特に、自動車エンジン用スパークプラグの生産では、世界的に大きなシェアを占めています。

さつまいろ  
 さつま町のものづくりに  
 関するPR動画はコチラ!



### 倉内工業団地

時吉・湯田地区にまたがり、敷地面積は19.4万㎡。金属加工製品、精密機械部品、自動車部品などが製造されています。



### 田原工業団地

昭和49年(1974年)より大規模な工場が操業。スパークプラグの生産量は世界一です。



さつま町の**ものづくり**に関するとりくみ(抜粋)

### さつま町ものづくり企業振興会

町内企業間及び関係機関との情報交換並びに相互研修により連携を深め、さつま町の産業振興に資することを目的としています。

■会員構成…町内ものづくり企業、さつま町商工会、さつま町議会、さつま町

### 企業立地促進助成制度

企業の新規立地及び既存企業の事業所拡張などへの支援制度として、以下の支援を行っています。

■支援制度…企業立地促進助成金、固定資産税課税免除

### 新卒者就労支援奨励金

高等学校等の新卒者の就労促進と企業の人材確保を支援するため、「さつま町新卒者就労支援奨励金制度」を創設しています。



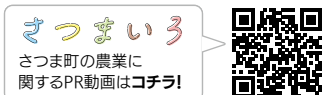
中津川採種生産組合 組合長  
もりなが ひろし  
森永 洋 さん

中津川地区は水がきれいで、おいしい米がとれるところ  
です。中津川採取生産組合は50年以上の歴史が  
あります。種もみの生産地でもあり、私たちが育てた種  
もみが鹿児島県内全域で使われていることから「私た  
ちが鹿児島の米作りを支えている」という責任と誇り  
を感じています。生産組合では世代交代も進み、若い  
人も活躍しています。ドローンの導入をはじめ、スマ  
ート農業にも積極的に取り組んでおり、新たな取組には  
町も支援しています。私たちは夢を持って農業に取り  
組んでいます。そして、これから産地の担い手となっ  
ていく若い方たちへつないでいきたいと思っています。

澄んだ水と、肥沃な大地と、  
そして情熱も注ぎ込まれて

# 農業

稲作や果樹栽培、畜産など、農業が盛んなさつま町では、持続可  
能な農業、活力ある農村を目指し、担い手育成やスマート農業を  
推進しています。また、町内で生産されている農林水産物などの  
地域資源を活用した6次産業化を図り、農林水産物の付加価値  
の向上、地域農林漁業の活性化に取り組んでいます。



さつま町の農業に関するとりくみ(抜粋)

## さつま町6次産業化推進戦略

町内の農林水産物など、地域資源を活用し、生産  
者が自ら加工・販売を行う6次産業化に取り組ん  
でいます。農業をはじめとするあらゆる業種の垣  
根を越えて、農林水産物の付加価値の向上、地  
域農林漁業の活性化を図っていきます。

## 農地中間管理事業

公的機関である農地中間管理機構が、農地の受  
け手を探している農家から農地を借り受け、農業  
経営の効率化や規模拡大を考えている受け手(担  
い手農家等)に貸し付ける制度です。集落等の地  
域で、担い手への農地集積と集約化を支援します。

## 肉用牛特別導入事業

肉用牛資源の確保と畜産の振興のため、さつま  
町肉用牛特別導入事業基金を設置しています。こ  
れは、育成牛5年間、成牛3年間、農業者に貸し付  
け後、譲渡するもので、貸付け頭数は3頭以内(認  
定農業者は5頭以内)となっています。



梅

町の東部には梅園も広がる。平成3年に和歌山県から南高  
梅の苗木を取り寄せてこの地に植えたのが始まり。大粒で香  
り高いさつま町の梅は、名品として知られています。平成22年  
には「薩摩西郷梅」として商標登録。  
これは永野金山の鉱業館長として地域振興にも尽力した西  
郷菊次郎に由来します。満開の2月頃の風景も圧巻です。



水稻

鹿児島県内でも有  
数の米どころ。寒暖  
差が大きく、おいし  
い米が育つ条件が  
揃っています。



イチゴ トマト 茶

## イチゴ・トマト・お茶

さつま町では、「さつまおとめ」「さがほのか」などのイチゴや、栄養豊富なトマトの栽培  
も盛んに行われています。また、奥薩摩特有の霧の中で育ったお茶は、深みのある  
味わいと香りが高く評価され、県内でも有数の優良茶産地として知られています。



黒毛和牛

鹿児島県は全国屈指の畜産県で、  
ブランド牛「鹿児島黒牛」がよく知  
られています。さつま町は子牛の生  
産が盛んで、町内の薩摩中央家畜  
市場の子牛取引価格は全国でも  
トップクラスです。また、さつま町で  
供用されていた種雄牛の「平茂  
勝」号や「安福久」号は名牛として  
知られ、その血統は国内の多くの  
和牛に受け継がれています。



ナシ

## 甘く香る果樹園

さつま町はキンカンなどの果樹栽培  
も盛んで、高品質の果物が全国へ  
向けて出荷されています。また、ナシ  
やブドウなど観光農園も多く、もぎた  
ての味を楽しむことができます。



キンカン

鹿児島県北薩地域振興局 農林水産部  
さつま  
小山 只勝 さん

農業という産業は、台風など気象トラブルに悩まされ  
ることも多いので、私たちは日々、農家の方々や交流  
しながら、それぞれの状況に応じたサポートを心がけ  
ています。最近では、農業についてもさまざまな情報が  
手に入る時代になってきているので、さつま町で実現  
できる新しい農業の形について話し合う研修会を開  
催することもあります。さつま町は鹿児島県の中でも  
特徴的な農業が多い土地です。そして、この町には温  
泉や自然といった観光資源もたくさんあります。その  
資源と農業をうまく連携させて付加価値を生み出し  
ていければ、この町独自の新たな農業スタイルが生ま  
れるのではないのでしょうか。



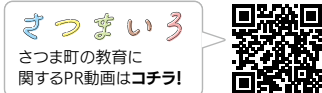




ふるさとの魅力を学び、  
未来をひらく豊かなところを育てます。

# 教育

郷土に誇りを持つ志の高い子どもを育てるため、学校教育と社会教育とが連携して郷土教育を推進。さつま町の自然や人、文化、歴史と触れ合うさまざまな体験活動を通して豊かな人間性を育てます。また、令和4年に開校した鶴田小学校では、新しい校舎で児童がいきいきと活動できる学校づくりを進めています。



さつま町の教育に関するとりくみ(抜粋)

## 奨学資金貸与制度

高等学校、高等専門学校、短期大学、専門学校、大学等の学費の支出が困難な方に対して、無利子で学費を貸与する奨学資金貸与制度があります。

## 通学費補助

町内に居住し、町内の小学校及び中学校へ遠距離で通学する児童生徒の保護者の負担を軽減するために、定期券や自転車購入の費用など、通学に係る経費の一部を補助します。自家用車を使用する場合も補助の対象となります。

## 英語検定補助

児童生徒の外国語によるコミュニケーション能力を高め、英語力の向上を図るために、町単独事業として、財団法人日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定の検定料を補助しています。



## 新春 泳ぎ初め

元日に冷たい川内川に入る。昭和29年に宮之城高等学校(現在の薩摩中央高等学校)水泳部が始めたもの。立ち泳ぎしながら矢を放つ儀式も恒例です。



## 青少年交流

友好交流町の鹿児島県中種子町・青森県鶴田町へ青少年を派遣。その地の文化や風土に触れて親睦を深め、そこでしかできない体験をします。



## さつまふるさと体験塾

目で見て、感じることで「ふるさと」を再発見。町内探索やタケノコ掘り体験などの活動に、学年の異なる子どもたちが一緒に取り組みます。



## さつまっ子チャレンジ教室

さつま町出身の大学生や社会人と町内の小中学生が交流。毎年、夏休み期間中に実施されています。話題は、大学で勉強中の専門分野のことや将来に向けての夢など。それぞれの意見を交換し、互いに成長できるきっかけをつくります。



## 英語スキットコンテスト

町内の小学生が、指定されたテーマでスキットの発表を行います。中学生のスキットやスピーチの発表は、小学生にとって、素敵な見本となっています。



## 手漉き和紙で卒業証書

鶴田小学校、柏原小学校の卒業証書は、伝統的工芸品の鶴田和紙。6年生は手漉き和紙作りに挑み、自分の手で卒業証書を作ります。



## さつまカルタ

平成27年に町内の小学生が参加して制作。内容は、さつま町を題材にしたもの。郷土をよく知り、ふるさとを愛する心を育てます。



## 鹿児島県立 薩摩中央高等学校

薩摩中央高等学校は、宮之城農業高等学校と宮之城高等学校の伝統を受け継ぎ、平成17年4月に開校。普通科、生物生産科、農業工学科、福祉科の4学科を設置し、所属する学科で専門的な学習を深めるとともに、2・3年次には、進路希望や興味関心に応じて学科の枠を越えた科目を選択できる総合選択制を取り入れています。

### 普通科



### 生物生産科



### 農業工学科



### 福祉科



## 薩摩中央高等学校 福祉科 下大迫 彩夏 さん

ゆったりとした雰囲気、ほっと安心できる場所。さつま町が好きだから、高校進学も地元を選びました。勉強をするのにも、部活に打ち込むのにも、薩摩中央高校は良い環境だと思います。ウエイトリフティングを始めたのは高校に入学してから。練習の成果が見えやすい競技で、頑張りがいがあります。卒業後は進学が決まっています。保育士を目指します。そして、ウエイトリフティングも続けます。自分の力をどこまで伸ばせるのか、これからも挑戦していきたいですね。







未来を担う子どもたちを、  
まちぐるみで育てます

# 子育て・福祉

今後ますます少子高齢化が加速することが予想される中、地域福祉に対する基本理念や福祉施策の方向性を定める「さつま町地域福祉計画」を策定。子育て支援や高齢者福祉サービスの充実のほか、あらゆる多様性を認め合い、だれもが安心して暮らせる地域共生社会の実現に向けた多くの施策を実施しています。

さつまいろ  
さつま町の子育てに  
関するPR動画はコチラ!



## はぐ Hugくみるーむ

2か月児と母親のための育児相談を平成27年度から実施しています。親子の良い関係を築くためのふれあい遊びや抱っこ方法の紹介、日頃の育児に対する相談を実施しています。



## フッ化物洗口

永久歯のむし歯予防手段として有効なフッ化物洗口を町内の特定教育・保育施設や小中学校で実施し、子どもたちの歯と口の健康を守ります。



## 教育・保育施設の充実

町内には、保育園と認定こども園、0～2歳児を対象とした地域型保育事業があり、保護者の多様なニーズにきめ細かく対応できる子育て支援を進めています。



## 産後ケア

安心して子どもを産み育てやすい環境づくりとして、保健指導に使用することができる「さつま町産後ケア応援券」の交付や産後ケア宿泊型事業、産後ヨガ教室などを行っています。



## さつままる・ふくしマルシェ

毎月24日を福祉の日に位置づけ、福祉事業所で生産された野菜や加工食品等の販売、事業所の活動を紹介し、障がいに対する理解促進を図っています。



## ころぼん体操

童謡のリズムにあわせて、おもりを使って立った状態やいすに座った状態で体を動かします。筋力アップを目指し、転倒や寝たきりを予防します。町内各地のサロンなどで取り組んでいます。



## 認知症カフェ(オレンジカフェほうかつ)

認知症地域支援推進員が中心となって、認知症の方やその家族、地域の方など誰でも気軽につどい、交流や相談できる場を運営しています。介護ストレスの軽減だけでなく、新たな出会い、地域とのつながりの場となっています。



## グラウンドゴルフ大会

さつま町高齢者クラブでは、高齢者の生きがいづくりや健康づくり、地域づくりのためにさまざまな活動を行っています。仲間との親睦を図りつつ、健康増進につなげることを目的として、春季・秋季にはグラウンドゴルフ大会を開催しています。

さつま町役場 子ども支援課 子育て支援係  
津田 範子 さん

私は子育て専門相談員として、幅広く相談を受けています。その中の一つとして、利用者支援事業「さくらんぼ」という事業を通し、お母さんやお父さんの不安に感じていること、困っていることなどを聞き、一緒になって必要な支援を受けられるように情報提供や関係機関の案内などを行っています。電話や訪問、健診などでも相談しやすい場をつくり、少しでも育児への不安と負担を軽減できるよう、これからもお母さんお父さんに寄り添っていきたくと思います。

